



高山寺 第39世住職晋山奉告法要

(写真 高山寺)

- ・お寺さんこんにちは(高山寺)
- ・社会教育・公民館関係役員
- ・ここに生まれた
- ・サークル紹介(アコギ会)
- ・小川に生きる
- ・図書室だより
- ・小川に生きるアーティスト
- ・絵手紙教室作品 ・公民館報お料理レシピ



お寺さんこんにちは

高山寺

「宝珠山高山寺の歴史と三重塔の物語」

ごあいさつと御礼

このたび高山寺では、庫裏及び諸堂屋根の改修工事を無事に終わることができました。令和7年4月29日には、工事の完成を祝う落慶法要と、第39世住職晋山奉告法要を盛大に執り行わせていただきました。こ



れもひとえに、日頃より高山寺を支えてくださっている皆さまの温かいご支援とご協力、そして浄財勸募へのご理解とご厚志の賜物でございます。心より感謝申し上げます。高山寺にとってこの屋根の修復は、建物の保存という点にとどまらず、信仰の場を次代に継承するための大切な一歩となりました。

高山寺の歴史

高山寺は伝承によると大同2年（807年）、坂上田村麻呂公が戦勝祈願のために建立し、弘法大師作と伝わる聖観音像を安置して創建されたといわれています。以来、1200年以上にわたって法灯が絶えることなく守り継がれ、歴代領主や支配者から庇護を受けてきました。境内には七堂伽藍しちどうがらんが整い、末寺も18カ寺におよぶ大寺院として隆盛を極めました。山門（仁王門）の左右には朱塗りの仁王像（阿形・吽形）あきよう うんぎようが安置されており、これらは行基菩薩の作と伝えられて



います。境内は豊かな自然に囲まれ、春の桜や秋の紅葉など四季折々の風情にも恵まれています。特に高山寺にある三重塔は、北信地方で唯一とされ、その格式の高さと荘厳な伽藍群によって多くの参拝者に親しまれてきました。また、高山寺は信濃三十三観音霊場の第33番札所（結願寺）としても名高く、巡礼者をはじめ多くの人々が参拝に訪れています。

三重塔の由来

高山寺の三重塔は鎌倉時代の建久6年（1195年）に源頼朝公が崇敬の意を込めて寄進建立したと伝えられています。高山寺の三重塔は長い歴史と信仰を



背負った象徴的な存在として、今なお多くの人々から尊びあがめられています。

三重塔再建のエピソード

江戸時代中期になると、三重塔は老朽化が進み、元禄年間（1694年頃）には倒壊寸前となっていました。当時の二十一世住職秀榮しゅうえい法印は再建を決意し、虫倉山で修行中だった木食山居上人（故しんほうあ信法阿上人）に再興の願主となるよう依頼しました。木食上人は元禄7年（1694年）から5年の歳月をかけて再建事業を指導し、この事業では「十万人講」と呼ばれる勸進組織によって老若男女を問わず一人一文（一文銭）ずつの寄付を募り、十万人を超える信徒から浄財が寄せられ、寄進された浄財の総額は百両にも達し、工事費用はすべて民衆の浄財によって賄われたと伝えられています。こうして元禄11年（1698年）に現在の三重塔が完成し、地域の土工たちの手によって見事に再建されました。

塔の功德くどくと民衆信仰

このように多くの人々の協力によって再建された三重塔は、その成立過程自体が信仰の象徴となっています。仏教では少額の布施でも大きな功德（ご利益）があると説かれ、わずか一文の寄付にも深い意味があ

るとされます。高山寺の再建では子どもから高齢者まで幅広い世代が「一人一文」の勧進に参加し、地域全体の信仰心が結集しました。その姿勢は「賽銭一文の功德」という考えを具体化したものであり、少額の浄財でも塔建立に役立てることを多くの檀信徒が信じた結果でした。信徒たちは塔再建に参加することで信仰心を深め、三重塔はまさに民衆の祈りと信頼で再生した地域のシンボルとなったのです。現在もこの塔は高山寺の信仰の中心の一つとして大切にされており、訪れる人々が塔の前で手を合わせる姿が絶えません。又、三重塔は、昭和60年に県宝にも指定されています。

現在の取り組みと今後

高山寺では現在、「さんきよ市」という名のマルシェを定期的に開催しております。これは地域の方々とのつながりを深め、高山寺が信仰の場であると同時に、地域の憩いの場、心のよりどころとしての役割を果たしていくことを目指した取り組みです。お寺は特別な存在ではなく、誰もが立ち寄り、心を静めることができる場所であるべきだと私たちは考えています。

次代への決意

小川村にとって高山寺は貴重な文化財でもあり、

1200年以上の歴史を誇る法灯を絶やさず次の世代へと伝えていくことは、現住職である私に課せられた大切な責務です。信仰は特別な人のものではなく、誰もが日常の中で触れられるものであると信じております。これからも地域の皆さまと力を合わせ、寺の伝統と信仰を守り継ぐ努力を怠らず、より開かれたお寺として皆さまをお迎えしてまいります。つきましては、

本稿を通じて高山寺の歴史にご関心を持っていただければ幸いです。改めて皆さまに感謝いたします。皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます、どうぞ変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。合掌

(第39世 高山寺住職

小泉 栄葵)



2025年度 社会教育・公民館関係役員

【社会教育委員会】

議長 花田 隆夫
副議長 塚田 綾子
委員 下蘭千登世
委員 柳澤 隆一
委員 小林 浩一

稲丘東分館長 和田 重孝

〃 主事 田澤 正信

稲丘西分館長 伊藤 和晴

〃 主事 徳武 知幸

成就分館長 小林 増男

〃 主事 河邊 寛之

北尾分館長 松本 武志

〃 主事 北澤 大樹

◎法地分館長 宮下 守

〃 主事 坂口 次男

瀬戸川分館長 江成 康明

〃 主事 高戸谷佳子

古馬川分館長 伊藤 繁

〃 主事 伊藤 正

【スポーツ推進委員会】

委員長 小林 雅樹

副委員長 徳武 美江

委員 松本 武志

委員 伊藤 聖寛

【視聴覚委員会】

委員長 川又 啓一

副委員長 横矢 匠

委員 丸田 勉

委員 和田 久憲

委員 大久保雅夫

委員 川又 康助

【図書委員会】

委員長 大沢 綾子

副委員長 木村めぐみ

委員 太田 冴加

委員 小泉さやか

委員 和田 博之
委員 矢口 早苗

【分館長・主事】

夏 和分館長 松本 幸一

〃 主事 佐藤 茂樹

久 木分館長 久田 肇

〃 主事 宮島 進

高府町分館長 松本 敏照

〃 主事 吉田 学

○ 花 尾分館長 宮下 浩一

〃 主事 西澤 謙

上 野分館長 酒井 和英

〃 主事 高木 則昌

小根山分館長 峯村 和雄

〃 主事 伊藤 賢治

【館報編集委員会】

委員長 三水 恵

副委員長 松本 真佑

委員 下蘭 彩佳

委員 伊藤 聖寛

ここに 生まれました



『時をつむぐ』

堀井 あすかさん

(稲荷 ハゴロモ鍼灸院)

15歳の春、となりのクラスでかっこいい男の子をみつめました。その人と9年間の月日を重ね、結婚。翌年に女の子が生まれ、「うい」と名づけました。「世界はいつも新しい」という思いを込めて、初々しいのういちちゃん。



広島出身の私たちですが、夫の仕事の都合で結婚とともに長野にやってきました。慣れない土地ではじめての育児。頼れる人もいなくて、孤独で苦しい毎日でした。夫は私の異変を察知して転職し、子育てに積極的に関わるようになりました。そして3年

前、小川村に引っ越してきました。小川村のみなさんは本当に親切。近所の方に「子供や犬がうるさくないですか？」と聞いたら、「この家に明かりがついていだけで嬉しいよ」と返ってきました。私たち家族の存在を喜んでくださる姿に胸が熱くなりました。

ういが小学生になり、3人家族でこの先も過ごすのだろうと思っていた矢先に妊娠が発覚。昨年春に第二子が誕生し、「ふき」と名づけました。露の季節のふきちゃん。風が吹く、いぶき、めぶきの意味も込めました。



ふきが生まれた日は5月なのに季節はずれの霜がおりた、寒い朝。早朝、助産院に向かう道路の温度計は0℃を表示していました。陣痛であまり眠れていない私は助産院に着いたら仮眠をし、夫とういはその間出掛けていました。「2人が帰ってきたら本番だよ」と、お腹に声をかけてひと休み。お昼前に2人が帰ってきたら本当に陣痛が強くなり、あれよあれよと子宮口が全開に。激しい痛みの中「ふきちゃんナイス陣痛！外の世界は楽しいよ。出ておいで」と心で呼びかけるとまた陣痛がきて、まるでキャッチボールをしているみたいでした。そしてついにヌルツと生あたたかい赤ちゃんが出てきて、私の胸の上に置かれました。無事に終わって

よかった！と、ひと安心。へその緒はういが切ってくれました。「硬くて切りづらかった」



と後で教えてくれました。

こうして4人家族になって早1年。ふきはすくすくと育ち、つたい歩きと、はいはいで家中を動きまわっています。ういは妹のお世話を喜んでやってくれる、すてきなお姉さんになりました。15歳のときに芽ばえた恋心がこんなかたちに発展したかと思うと、感無量です。夫と出会ってから来年で20年。子供がいても2人の時間を大事にして、ますます良い関係を築いていきたいです。そして「世界は楽しいよ」とおまねきたからには、2人の娘が生きる世界が楽しいものであるよう、夫とともに力を尽くします。小川村のみなさんに見守られながら育児ができて、本当に幸せです。これからもどうぞよろしくお願ひします。





「アコギ会」 代表 北田 正一さん (下市場)

「昭和の終わりの頃学生だった方は、深夜放送全盛であふれるような音楽にふれて、誰もが一度はギターに触れてみたのではないのでしょうか。」



リーダーの北田正一さん

就職、結婚、子育て…生活のなかでギターとの距離もそれぞれになっていたおじさん三人がたまたま出会い、ギターの音が好き！で始めたのが去年の暮れでした。

会の名前が必要と単純にアコースティックギターの略でアコギ会として、図らずも伝統ある三月の小川村文化協会ステージ発表会に参加させて頂きました。それを機会に様々な方からお声がけしてもらい少々恥ずかしくもあります。

私北田が70才、和田重孝さんが65才、田澤正信さんが60才、10年の開きがありますが、かぐや姫、アリス、サイモン&ガーファンクルなど当時のフォークソングを中心に練習しています。

それぞれが夫々の思い出を持って、でも共通の言葉を持ってた奇跡の時代には感謝の様な気持ちにもなります。



練習風景

月に二回程度公民館で練習しています。練習とは言えひたすら楽しく！をアコギ会の唯一の会則として居ますので、一緒に弾きたい、歌いたい方のご参加お待ちしております。最近はアイドルグループ「AKB48」も練習していますからお気楽にどうぞ。

現在ボーカル絶賛募集中です!!



和田重孝さん（味大豆）



田澤正信さん（栗本）



三人で

現在3名のアコギ会。小川村生まれの小川村民と移住の皆さんが、気の置けない仲間となり、公民館という「つなぎ」の場所で、音楽を通じた文化活動をわきあいあいと楽しく行っています。

改めて、文化を通して出会う仲間には出身地や仕事、生活環境などは全く関係が無いことを感じています。アコースティックギターをこれから始めたい方にも「アコギ会」の皆さんはやさしく教えてくれます。

小川村公民館へ集まれ！文化人！（主事）



古屋 源吾さん (次木)



北アルプスの山々が一望できる日本記次木で住宅の隣にある作業小屋を改装し、そば屋を営んでいる古屋源吾さん、73才。

源吾さんは、昭和42年に中学校を卒業後、住み込みで旧中条村にあった工務店で大工修行をした後、兄弟3人で「柳屋兄弟建築」を興し、兄たちは長野市で源吾さんは味大豆で仕事をしています。建築業は順調で職人も雇い、平成の初め頃には8、9人ほどの職人がいたそうです。しかし、2人いた兄の一人が亡くなり、一番上の兄も年齢的に仕事をするのが難しくなり、今は息子さん2人と「柳屋兄弟建築」の看板を守り建築業を続けています。

そんな源吾さんがそば打ちをするようになったのは、昭和54年に奥様と結婚し婚養子として古屋家に入ったことがきっかけでした。その当時、古屋家では義母様がおやきやそばを打っており、その腕前も良かったそうです。

結婚した年に自宅の横に仕事用の作業小屋を建てました。平成六年に自宅を新築する際、仮住まいとしてその作

業小屋で一年ほど生活することになり、その間も友人や商工会関係者など多くの人の来訪がありました。その度に義母様が自慢のおやきや手打ちそばを振舞っていたそうです。そんな義母様も年をとりそばを打つことも難しくなった時、源吾さんは、「義母様と同じように友人や知人などが来た際にそばを振舞う事ができれば」と独学でそば打ちを習得し、趣味でそばを打つようになりました。

源吾さんの打つそばは評判を呼び、「そばを打つてくれないか」と頼まれ、お店にそばを卸すことに。しかし、その当時はまだ許可を得ていなかったため保健所から製造の免許を取得すれば営業許可を下ろすことができると言われ取得。そして、15年ほど前に建築業の傍らそば屋「友楽」の営業を始めました。開店当初からそば、うどんを打つのは源吾さん、笹寿司や副菜の料理を作るのは奥様。二人三脚でお店を切盛りしています。店名「友楽」は、友が集い共に楽しい時間を過ごせる場になればと名付けたそうです。その名前の通り今では県内外から源吾さんのそばの味、小川の味を求めてお客さんがやってきます。来店したお客さんがインターネットの口コミ、食べログで「友楽」



古屋夫妻と料理を楽しむお客さん



一流シェフも喰る！

を紹介することも増え、今では予約の8割は県外、2割が県内のお客さんだそうです。そして一年に1度は、必ず来てくれる県外の常連さんもいるとのこと。取材に訪れた日も九州から白馬に行く途中に立ち寄ったという4人のグループが訪れ、のんびりとした時間が漂う中、古屋ご夫妻との気さくな会話を楽しみながら、源吾さんのそば、奥様が作る小川で採れた山菜の天ぷらやタケノコ汁に舌鼓を打っていました。

源吾さんは言います、「田舎のない人たちの田舎のジジとババになれたらサイコーだよ」この言葉の裏には、足を運んで来てくれる方に居心地の良い場所を提供し「心を返せることをしていきたい」「小川に来て良かった、また来たい」と思っているという思いがあるようです。

そんなお店のこだわりは「地産地消」。天ぷらの山菜も、卵焼きの卵もすべて小川で採れたもの。「おしゃれなものじゃなくて自分たちが普段食べているものを出しているが、街の人はそういうのを好んで食べてくれるんだよ」と源吾さん。一つひとつ素材な食材ですが、都内有名店の一流シェフが訪れた際も「これだけ珍しいものはない。是非

非これからも続けて欲しい」と喜んで食べていかれた太鼓判を押されたそうです。

また、人懐っこい笑顔と優しい眼差しで「この暮らしが自分に合っている。ここの生活が好き」という

源吾さんは、積極的に地域活動も行っています。昭和62年頃から平成にかけて、現在の大洞のマレットゴルフ場がある場所に、賑やかになればと花菖蒲を植え、多い

時には約5000株を管理し大洞を訪れる人を楽しませていたそうです。更に、延べ30年ほど商工会役員として村の商業の発展にも貢献され、長年に渡って商工会長として活躍されました。現在は、民生児童委員として地域福祉活動にも尽力されています。そして実父がお世話になった感謝の気持ちとして十数年前からサンリングデイサービスに毎年3回そばを提供しています。

「そばは趣味で始めたこと。自分の代で終わっても良いと思っっている」「喜んでもらえることで自分も元気になる。人への感謝を忘れずこれからもそばを打ちたい」と思いを語ってくれた源吾さん。これからも村を訪れる方の「ジジ」として、ここでの暮らしを愛する一人として村を盛り上げる一翼を担っていただければと思います。



大洞高原を彩った花菖蒲園

子ども読書週間

今年も読み聞かせボランティアに参加しました

4月23日～5月12日は「子ども読書週間」でした。小川小学校で行われた図書館の授業に図書委員もボランティアとして参加し、子どもたちとの時間を楽しんできました！感想を紹介します。

一年生と五年生の読み聞かせボランティアに参加しました。毎回、「ちゃんと聞いてくれるかな？楽しんでくれるかな？」とドキドキ。まだまだかわいい一年生は、身を乗り出して話しかけてくれたり、とても元気なりアクション。五年生は静かに聞きながらもしつかり内容を感じとつてくれました。終わったあと、五年生の子が「良かったよ」と声をかけてくれて、とても嬉しかったです。少しでも本を好きになるきっかけにしたいなと思います。(小泉)



読み聞かせした本



1年生の読み聞かせの様子

『たんぽぽたんぽぽ』
中川季枝子



三谷 莉穂ちゃん
みたに りほちゃん

ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ
本のプレゼント～
令和6年9月生まれの赤ちゃん

『子どもに読んで聞かせたい本は？』



図書室だより
小さな木の実

第118号
図書委員会

図書館の楽しみ方

読みたい本がある時、どうすればいい？

「この本読んでみたいな」と思った時、皆さんはどうされていますか？

読みたい本を全部買うのも大変だし、お家にたくさん集まってしまうりもしますよね。そんな時、図書室を利用してみたいは。公民館の事務室に問い合わせると希望の本があるかないか教えてくれます。ない時は「信州ブックリサーチ」で検索して予約すれば、小川村公民館で受け渡しができます。長野県立図書館にあるものなら取り寄せられます。また小川村公民館の図書室では、リクエストも受け付けているので希望を出してみるのもいいかもしれません。



図書館の
おすすめ漫画「リラム」

『ベルサイユのばら』



歴史がちょっとおもしろくなる漫画『ベルサイユのばら』（池田理代子）。マリー・アントワネットなど実在の人物と、架空の主人公オスカルが登場し、フランス革命という激動の時代を背景に、身分や立場を超えた恋や友情、人間の葛藤が繰り広げられます。史実と創作が絶妙に混ざり合いながら、当時の文化や暮らしもありリアルに感じられ、歴史はちょっと苦手...という高校生にもおすすめ。もちろん大人も夢中になる、不朽の名作です。まだ読んだことのない方は、ぜひ一度手に取ってみてください。同じ作者による『天の涯てまで』『聖徳太子』もおすすめです。

図書委員会 活動メモ

先日の図書委員会で、図書室がどうなったらもつと良くなるかな？本ってみんなにとってどんな存在？など図書室について話し合いました。図書委員だけでなく地域の皆さんと話したり考えたりしたいと思っています。ご意見などありましたら、公民館、またはお近くの図書委員までお声がけください！

てきました。

木村さんにとつてアートとは？

と質問してみました。アートを通して色々経験し、学び、自分自身を成長させてくれる存

在なんだそう。「アートをしていなかったらこんなに沢山の場所に行けていないし、経験もできていなかった。だからすごく面白い。アートをやっててよかった」

未来の小川村への想いも語ってくれました。「村が元気であって欲しい。人が減少していくのは仕方がないけれど、とにかくみんなが笑顔である村であって欲しい」村へ熱い想いを持つ木村さんは、令和4（2022年）に成就に「地球と遊ぶ工房」を作りました。老朽化が進んでいた管理棟をリノベーションし、半分はキッチン、半分は物作りができる工房にしました。キッチンスペースはキッチン台が昇降式で、使う人の身長に高さを調節でき、子どもから、大人まで誰でも使いやすいように作られています。ワーク



木村崇人さん

ショップ等のイベントや育成会のクリスマス会で利用されています。「世代、性別に関わらず人々が集いコミュニケーションを取れる場所の一つにしたい」小川村で生活している今、木村さんの芸術活動のテーマでもある「地球と遊ぶ」と同様に、「小川村と遊ぶ」活動がこれからも楽しみです。



森ラジオステーション×森遊会（千葉県）



絵手紙教室 松本 夏子

夏バテ解消 & 夏野菜消費レシピ

余りがちな夏野菜を使った、火を使わずに簡単に作れるレシピをご紹介します!

野菜の水分だけ! さっぱり夏野菜の冷製スープ

- ① きゅうり、トマトは適当な大きさに切り、油と一緒にミキサーにかけ、なめらかにする
- ② 塩・胡椒で味をととのえる

ポイント

- お好みに牛乳を加えるとより濃厚な味わいに!
- コンソメを入れてもOK
- ビタミンやミネラル、水分がたっぷり含まれるきゅうりやトマトで夏バテ解消にもおすすめです!!

材料 (作りやすい分量)

• きゅうり	1本
• トマト	3個
• オリーブ油	大さじ1 (家にある油でOK)
• 塩、こしょう	少々



困ったを解決! 冷凍活用術
～ 茄子編～

- 茄子は、冷凍保存で長持ち! 凍ったまま使えてとっても便利!**
- ① ナスのヘタを落とし水で洗い、好みの大きさに切り水にさらす
 - ② ペーパーで水気を取り、冷凍用保存袋に入れて冷凍庫で保存 (目安1か月程度)